

## ○ニューマーケット

人ごみ、熱気、現地の生活の香りで充満した圧倒的な雰囲気。それに伴う多くの物乞い。買い物は男だけと聞いていたが随分と女性の姿も。ただ商人達は皆男性。彼らがいたところで私たちを呼び止める。「マイフレンド」「ブラザー」「ボス」。これが、世界史でも名を馳せたイスラム商人か。最近では定価販売も見かけるようになったとはいうものの、ほぼ価格は交渉で決まる。需要と供給の接点を見出すこのゲームにも似た交渉は、消費者側も値段を提示して折り合いをつけていく。(やはり外国人には高い値段が提示され、ちなみに最大で1500タカが700タカになった。)私は二人で行動していたのだが、共に体格がよく、ロシア人かと訪ねられた。日本人だというと日本人はショートだからそんなはずはないと言っていたのは、彼らの日本人に対する印象がうかがえる一場面であった。



ニューマーケットで文化祭に販売するガムチャ(てぬぐい)を購入

## ○懇親会

現地 JICA 事務所の萱島所長・長次長をはじめ、今回お世話になった協力隊員や専門家、現地 NGO で活躍する方とバングラデシュ最後の夜。ここに集まった方々が優しいのか、バングラデシュが人を優しくするのか。我々を温かく迎えていただいたことへは、彼らのような人材を育てることで報いていきたい。そんな素晴らしい出会いばかりであった。特に、河田さんには最大の感謝を申し上げたい。

「ショバイケ オネーク ドンノバード ジャナチ」(感謝申し上げます)

9日目 8月17日(金)

コラム提供:福島県郡山市立日和田中学校 吉野 ひな子 教諭

## ○別れ～かけがいのない思い出を胸に～

ダッカ国際空港に到着し、初めてバングラデシュを感じた日、溢れんばかりの人々の熱気に「遂に始まる」「やっつけられるだろうか」など思い思いの気持ちを胸に飛び出した・・・あの日から8日目。遂に最終日。前日まで体の不調を訴え、一緒に帰国できるか分からなかったメンバーもホテルのロビーに集まることができた。また、休みにもかかわらず、河田さんがホテルに駆けつけて下さった。河田さんのメンバーを包み込む心強いサポートで、安心して研修に励むことができた。思いがけない事件やわがままにもいつも応えて下さり、本当にありがとうございました！別れ難い気持ちでいっぱいでしたが、私たちは河田さんから巣立ちます！

## ○出会い～ダッカ国際空港にて～

ダッカ国際空港の出国審査の長蛇の列に、一人の日本人らしき男性が！話しかけてみると、とても気さくな方で、ネパール・バングラデシュ・タイをバッグパッカーで一人旅している、と伺った。そして、今から私たちと同じ飛行機でタイへ向かい、そこに数日間滞在する予定だそう。思いがけず、彼は宮城県庁に勤める東北人。異国の地で同胞、東北人に会い、日本への想いを高める私たちであった。

## ○熱弁～バンコク国際空港にて～

さすが東南アジアの中継地。宇宙ステーションばりの構造に果てしなく続く遊歩道。照明が眩しいばかりの店を横目に、腰を下ろせる場所を求め、ひたすら歩いた。私は友人とおしゃべりを楽しんでいた。次の瞬間、二人

とも示し合わせるように話を止めた。私たちの前を通り過ぎたのは、紛れもなく養老猛氏であった。

振り返りの時、「幸せ」について熱く語った。物質的な幸せ、精神的な幸せなど、色々な形における「幸せ」が存在する。いずれにせよ、私たちの生徒が自分自身の人生に「幸せ」を感じられるようにするにはどのようにすればよいのか。私たち自身にも問うべきことである。教員として以前に、人間としての大きな課題ができた。

#### ○新たなる出発～輝ける未来のこどもたちのために～

この研修に際して、夢のような機会を提供して下さった方々に感謝すると共に、どんな時も協力し合い、励まし合った、このバン格拉チームに出会えた喜びが溢れた。心新たに、自らの生徒たちへ各々のメッセージを届けるために闘志に燃えるバン格拉チームであった。



別れ～かけがえのない思い出を胸に～

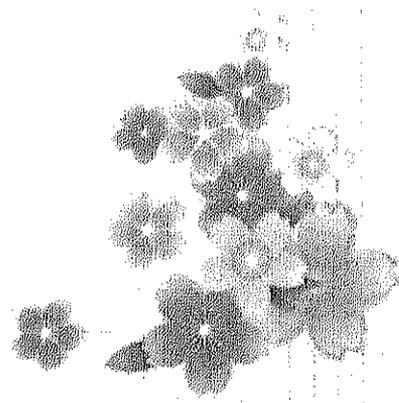


出会い～ダッカの国際空港にて～



## 3、実践報告書

～帰国後の授業実践～





タイトル(テーマ) 幸福を考える ～バングラデシュとわたしたち～

氏名 佐藤 賢治 川井村立江繁小学校 3・4 年複式担任

実践教科 総合的学習の時間 時間数 27時間

対象生徒・学年 3・4 年 対象人数 10 人

### (1)カリキュラム案

#### ①実践の目的

まずは、視察してきたバングラデシュの文化や生活を紹介することで、バングラデシュとそこに生活する子どもたちに親近感を持たせたい。その上で、バングラデシュを通して、開発途上国の貧困問題やそれに伴う課題を児童に知らせ、自分達がそんな国々の子どもたちのために何ができるか、考えさせたい。また、その過程で、日本に生活する自分達がいかに恵まれているか考えさせたい。

ところで、先進国は一方的に開発途上国に与えたり教えたりする立場ではないことも教えたい。バングラデシュが生んだ偉人ムハマド・ユヌス氏のマイクロ・クレジットが日本を含め、世界の貧しい人々に光を与えていることや、今、日本に失われつつある、東洋の伝統的価値観のよさがバングラデシュに残っていることなども紹介したい。

#### ②授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～6限目 テーマ:バングラデシュってどんな国? ねらい:「バングラデシュ新聞」を通して、関心をもたせる。	(1)3 グループに分かれ、本校の子どもたちにとって身近な韓国・フィリピンとともに、バングラデシュの新聞作りをする。 (2)新聞作りや発表を通して、バングラデシュの基本情報を知り、関心をもつ。	(1)世界地図・地球儀・インターネットによる情報 (2)児童が作成した3つの新聞
7時限目(授業参観で) テーマ:バングラデシュを知ろう。 ねらい:教師が見たバングラデシュの紹介を通して、バングラデシュに親近感をもたせる。	(1)教師が視察してきたバングラデシュの文化や生活について具体物や写真を通して紹介されることを通して、バングラデシュに親近感をもつ。	(1)世界地図・バングラデシュの国旗・視察で撮影した写真・児童書・音楽CD・民族衣装・食べ物(マンゴースティック)・車(ジリキシャ)の模型・ベンガル語の名刺等

<p>8～9時限目</p> <p>テーマ:バングラデシュのストリートチルドレン問題について考えよう。</p> <p>ねらい:貧困によって困難に直面している子ども達について知り、支援する方法を考える。</p>	<p>(1)バングラデシュのストリートチルドレンの生活について知る。</p> <p>(2)ストリートチルドレンを支援する方法を考える。</p> <p>(3)ストリートチルドレンを支援する活動について知る。</p>	<p>(1)・(2)TBS「世界を救うお金の使い方」のバングラデシュについての報道VTR・現地視察でのVTR「青空学級」「ドロップインセンター」・視察で撮影した写真</p>
<p>10時限目</p> <p>テーマ:貧困問題を解決する方法を考えよう。</p> <p>ねらい:自力で貧困問題を解決しようとする活動を知り、世界の貧困問題について考える。</p>	<p>(1)「大人になるまで生きてい」について考える。</p> <p>(2)ムハマド・ユヌス氏のマイクロ・クレジットについて知る。</p> <p>(3)世界の貧困問題について考えるとともに、自分達が経済的にいかに恵まれているかに気づく。</p>	<p>(1)『大人になるまで生きてい』その言葉が私を変えた」池田哲郎(CDセレクションラジオ深夜便</p> <p>(2)「ムハマド・ユヌス自伝」(早川書房)「グラミン銀行を知っていますか」(東洋経済新報社)</p>
<p>11時限目</p> <p>テーマ:発信の仕方を考えようしよう。</p> <p>ねらい:バングラデシュについて学んできたことをどう発信するか考える。</p>	<p>(1)学習してきたこととそれから感じたことをどのような手段で発信するか、学級の全員で考える。</p>	<p>(1)これまでの学習のポートフォリオ</p>
<p>12～21時限目</p> <p>テーマ:学習発表会に向けて練習しよう。</p> <p>ねらい:バングラデシュについて学習してきたことを劇風に発表する練習をする。</p>	<p>(1)学習を振り返り、シナリオを考える。</p> <p>(2)シナリオのセリフの割り振りをする。</p> <p>(3)シナリオを覚える。</p> <p>(4)発表の練習をする。</p>	<p>(1)それまでの学習のポートフォリオ</p> <p>(2)シナリオ</p> <p>(3)小道具・民族衣装・パワーポイント資料</p>
<p>22時限</p> <p>テーマ:学習発表会で発表しよう</p> <p>ねらい:学習してきたことを全校児童や父母、地域の方々、来賓の皆さんに発信する。「貧しい人々に何が</p>	<p>(1)学習発表会で「バングラデシュとわたしたち」の発表。</p>	<p>(1)パワーポイント資料</p> <p>(2)小道具</p> <p>(3)サリーなどの衣装</p> <p>(4)照明等</p>

できるか」「しあわせってなんだろう」		
23～26時限目 テーマ：台風被害のバングラデシュの人々に何が できるか考え、行動しよう。 ねらい：自分達にできることを考え、実行する。	(1)「ぼくたちにできることない？」の学級会 (2)ユニセフ募金の呼びかけをする。 (3)募金活動	(1)ユニセフ募金やNGO支援の資料 (2)募金箱
27時限目 テーマ：バングラデシュとわたしたちの生き方について考えよう。 ねらい：生き方を考える。	(1)感謝状授与式参加 (2)学習を振り返っての感想をまとめ、発表し合う。	

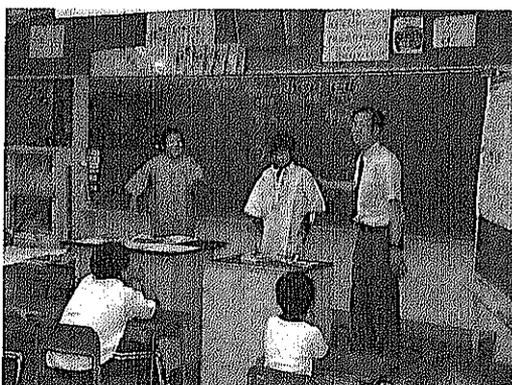
## (2)授業の詳細

### ①1～6 時限

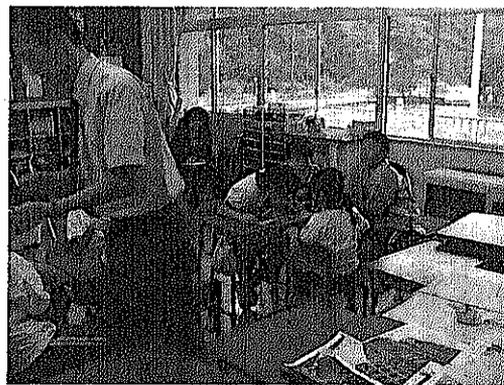
導入のため、本校の子どもたちにとって身近な韓国・フィリピンとともに、バングラデシュの新聞作りを通して、関心をもたせた。この段階では、意欲・関心を高めることがねらいとなるので、内容の未熟さや細部にはこだわらず、肯定的評価を心掛けた。

### ②7 時限

保護者や教育委員会、地域の方々、JICAの岩手デスク国際協力推進員も加えた授業参観で、教師が視察してきたバングラデシュの文化や生活について具体物や写真を用いて紹介した。まず子どもたちにとって、バングラデシュが親しみのわく身近な国とならなければ、これ以降の学習が他人事になってしまう、そこで、文化や生活の紹介を中心に授業を進め、貧困から来る問題点は、次時につなげるように少しだけ触れるくらいとした。



バングラデシュの服を着てみる



バングラデシュのお金に興味津々

### ③8～9時限

バングラデシュの貧困問題について、特に、子どもたちにとって身近な同年代の子ども達の生活にスポットを当てて学びを進めた。ストリートチルドレンの様子やその子らをサポートしようとしている活動について、教師が視察した際の写真などの資料とTBS「世界を救うお金の使い方」のバングラデシュについての報道VTRを組み合わせることで、臨場感を高めて、説明することができた。

指導の流れは、まず1時限目に、バングラデシュのストリートチルドレンの生活について知らせ、どうしたら、その問題を解決できるか。一人ひとりに考えさせる。自分なりの解決方法を考えさせた上で、2時限目に、実際に行っているストリートチルドレン支援の活動「青空学級」や「ドロップインセンター」などについて知らせる。その上で、今後必要な支援を考えさせ、それに向けての取組状況を説明した。

### ④10時限目

さらに、ただ頼るだけではなく、自国内で解決しようと立ち上がっている人々の活動について紹介していった。ムハマト・ユヌス氏のマイクロ・クレジットなどについてである。このことを学習させた意図は、程度の差こそあるものの、同じような貧困問題を抱えている川井村の将来を援助に頼るだけではなく、自分達で解決していこうという子ども達を育てたいというねらいがある。

また、世界の貧困問題について考えさせるとともに、自分達が経済的にいかに恵まれているかに気づかせることができた。

### ⑤11時限目

子ども達とともに、学習してきたことの発信方法について考えた。より多くの人に知ってもらえる方法ということで学習発表会の学級の総合発表とすることに決まった。

### ⑥12～21時限目

全員で10人という限られた人数で20分以上の発表を行うために、子ども達は、小道具づくりやセリフの練習、教師は、出演順の吟味や劇にして表現する部分の再考、パワーポイントでの写真提示など、工夫を加えながら、完成に近づけた。

### ⑦22時限目

学習発表会で、発表。(詳細は、シナリオとパワーポイント資料参照。)

### ⑧23～26時限目

この活動は、一人の子どもから始まった。「先生、ぼくたちにできることない？」何のことかと思ったら、その4年生の児童の家庭学習にこんなことが書いてあった。

「11月16日(金)

バングラデシュでサイクロン(シドル)。シドルとは、目という意味。4日目でも、あちこちでこう水がおき、ひがいは、3千人をこえる。デルタ地帯がこう水につながり、支援がゆきとどかない。現地取材している人によると、支援している人から、5キロの米をもらうために列ができていらしい。これからさらに、ひがいがふえるそうだ。バングラデシュでは、毎年サイクロンがあるらしく、こう水で住たくがぜんかい、高しおは、6～12メートルにもなるらしい。そんな人たちのために何かできることをしてあげたい。(先生へ)」

さっそくその日に急遽学級会を開く。他にも、「新聞で見た。」「テレビのニュースで見た。」という子達。児童会で毎年行う歳末助け合いの募金といっしょに募金をしよう、ということになった。こうして、3・4年生が児童朝会で全校に呼びかけることとし、ユニセフ募金をすることになった。

#### ⑨27時限目

学校生協を通して、ユニセフ募金に送金し、後日感謝状をいただいた。その様子が学校生協のホームページに掲載された。以下、その内容と写真である。

### 江繫小学校でユニセフ感謝状贈呈式を行いました

#### 自分たちでできることはないか、考えて呼びかけました

12月18日、川井村立江繫小学校で、ユニセフ募金感謝状贈呈式を行いました。

生徒さん達が「ユニセフ募金」に取り組もうと思ったのは、担当の佐藤先生からバングラデシュに行った時のお話を聞いた事がきっかけになったそうです。生徒さん達から見れば、バングラデシュは日本に比べて明らかに「物質的に」貧しいと思え、そのような環境にいる子どもたちのために、自分たちで何かできることはないかとみんなで考え、ユニセフ募金に取り組むことにしました。

バングラデシュの人々は多くが洪水の危険が高い低湿地にすんでおり、衛生状態はきわめて悪く、水を媒介にしたコレラ・赤痢などがたびたび発生している地域です。バングラデシュの子どもたちは勉強できることが幸せだと感じたり、大人まで生きられる事が幸せだと思ったりすると聞き、生徒達は衝撃を受け、バングラデシュの事を学び、『幸せってなんだらう』という素朴な疑問から学習発表会でテーマとして取り上げたそうです。その中で『物質的に豊かであることだけが幸せではない』ということ、幸せはもっと身近なところにあるのではないかと、このように「普段生活していること」も幸せと思えるのではないかと、というメッセージを学習発表会で発信した、と伺いました。

江繫小学校のみなさん、ユニセフ募金の取り組み、ありがとうございました。お預かりした募金は、ユニセフ岩手県支部を通じて日本ユニセフ協会へ送金いたします。



感謝状の贈呈



校長と担任とみんなで感謝状をかこんで

### (3)実践を通しての成果と課題

#### ① 成果

- ・ 感受性の豊かな小学校の中学年。この時期に開発教育を開始することのよさを感じた。貧困問題を自分の家族の問題のように真剣に考えようとする子ども達。バングラデシュの台風被害を報道で知り、教師より先に行動を起こそうと考えた児童達に拍手を送りたい。
- ・ 児童だけではなく、保護者や地域の方々にも、学習したことを発信できたのがよかった。特に、授業参観や学習発表会、読書感想文コンクール入賞(別資料参照のこと)、ユニセフ募金活動などである。
- ・ 教師としては、今回の実践内容を今後の参考資料としながら国際理解教育を進めることができることは、大変ありがたい。

#### ② 課題

- ・ 今回は、対象児童数が少人数であったことと、教師の発想の乏しさから、地域に発信する程度で終わってしまったが、より多くの方々に開発教育や国際理解教育に触れていただく機会を作っていきたい。

「平成19年度青少年読書感想文全国コンクール宮古地区予選入選作品」

アフリカの人々に水を

川井村立江繫小学校 4年 ○○ ○○

この前バングラデシュに行ってきた先生は、毎日三食カレーを食べてきたらしい。ぼくはその話を聞いて、バングラデシュの人はカレーが好きなんだなあと思っていた。しかし、それだけの理由ではなかった。バングラデシュのまずしい人たちは、少ないおかずでごはんを食べられるように、カレーを食べているのだ。だから、もしカレーをおなかいっぱい食べられたとしても、健康な体を保つのに必要な栄養が足りないじょうたいが長く続いてしまう。つまり、「きが」とよばれるじょうたいの人が多し。そういう人たちは、病気にかかりやすく、おなかをこわしただけで死にそうになることも多いのだそう。食べ物がいっつも十分手に入られるのは、世界の四分の一の人だけと知り、ぼくはとてもおどろいた。世界では、今も8億人の人々が「うえ」に苦しんでいるというのだ。でも、世界中の人たちがあきらめることなく助け合っていけば、きっと「うえ」をなくすことができるとぼくは思う。

バングラデシュでは、まずしい人々を助けるためにムハマド・ユヌスという人が特別の銀行を作ったそう。そこでは、ふつうの銀行でお金を借りられない、びんぼうな人がお金を借りて、小さなビジネスを始めて少しずつ豊かになっているそう。そんな取り組みが世界に広がり、世界中の人々が豊かになってほしい。

さて、ぼくのゆめは、アフリカの人たちに水をいっぱいあげることだ。

この夏のある日、大きな台風がやってきた。ぼくの家は、川からわき水を引いて使っているから、土砂や葉っぱでホースがつまって水が出なくなる。この時は、特にひどかったので、二日ほど水が出なくなった。止まりそうになったので、あらかじめタンクに水をためておいたから助かった。最悪の場合は、おばあちゃんの家にも水をもらいに行くつもりだった。歯みがきをする時も水は少しだけ。もちろんお風呂には入れなかったし、お皿洗いはタンクの水を大事に大事に使った。もしこんな日が一週間も続いたら大変だった。

でも、アフリカの人たちは、二日どころではない。雨がたまにしか降らないから、とても困っている。しかたがないから、わざわざ遠くに水をくみに行く。それも茶色のどろ水を。そんなどろ水でも大切に使っている。しかし、その雨水やどろ水の中には、いろいろな菌が入っていてとてもきけん。子ども達は、その菌のせいでげりになったりちよつとしたことで死んでしまったりする。ぼくは、水はどんなところにもあって、だれもが当然使っていると思っていたけれど、そうではなかった。自分は水をいつもぜいたくに使っていたことをとても反省した。そして、ぼくは、アフリカの人たちが水をいっぱい使えるように井戸を作ったらいんじゃないかと思った。だから、ぼくのゆめは、アフリカの人たちに水をいっぱいあげることである。

3・4年 総合学習の発表「バングラデシュとわたしたち」

シナリオ

(流れに沿って、パワーポイントで作成した資料や写真をスクリーンに写す。)

【1】

(パワーポイントスライド1:題名)

T:今年も韓国交流があります。それから、お母さんがフィリピン出身のお友達もできましたね。そこで、総合学習で、新聞作りをしたいと思います。

3つに分かれて、作りましょう。どれをやりたいですか。① 韓国 ② フィリピン ③バングラデシュの3つから選びましょう。

S1:先生、どうしてバングラデシュが入っているんですか。

T:それはですね。夏休みの間に、先生が研修で行って来るからです。

S2:えー、ほんとう。ずるい。

S3:いいなあ。

S4:ところで、バングラデシュって、どこにあるの？

N2:こうして、始まった新聞作り。(それぞれ作った新聞三つ並べて見せる。)

S3:先生に質問しながら書いたぼくたち、韓国チーム。

(ここで、チームで役割を決め、調べて分かったことや感想を紹介する。)

S4:直接インタビューして書いたぼくたち、フィリピンチーム。

(ここで、チームで役割を決め、調べて分かったことや感想を紹介する。)

S8:バングラデシュについて、調べたのは、ぼくたちです。

(スライド2:バングラデシュの国旗)

S9:バングラデシュは、東北と北海道をたしたくらい土地に日本よりも多くの方が住んでいます。

S2:バングラデシュでは、豆の入ったカレーをよく食べます。

S8:病院が少なく、生まれてすぐになくなってしまいうちの子供が多いです。バングラデシュに生まれなくてよかった。

N2:こうして、ぼくたちは、バングラデシュは、とても貧しい国だと知りました。

N1:そして、夏休みの後、研修からもどった先生から、バングラデシュのことをいろいろ教わり、自分達でも調べました。

【2】

N2:ここで、バングラデシュの生活と文化を紹介します。(暗転)

(s5捷哉:地図を持つ。)

(スライド3:バングラデシュ中心のアジアの地図)

S6:(地図を指差しながら)バングラデシュは、インドの近くにあります。大きな川が多く、毎年、雨が多いときには、土地の30%くらいが水の下に沈みます。今年は特にひどく、先生が行っていたときは、国の40%もが水の下だったそうです。

S7:そんな時、道路わきの電柱は、湖の底から生えているように見えます。  
(スライド4:水の中から生えているように見える電柱の写真)

S8:信じられない。

S9:①服装(衣)

S10:女の方は、サリーという布を体に巻いて着ています。  
(サリーを着ている) (スライド5:サリーを着た女性)

S1:きれいな布!

S2:男の方は、こんな服を着ています。

S3:すずしいー!(パンジャビを着ている)  
(スライド6:パンジャビを着た男性)

S4:しまもようは、むかしバングラデシュから島を渡って日本にも伝わり、「しま」もようというそうです。  
(スライド7:縞模様の服)

S5:だじゃれだー!

【3】

S6:②食べ物(食) (スライド8:カレー)

S7:主食は、ごはんですが、日本のものよりぱさぱさしています。毎食のように、カレーを食べます。

S8:やったー。おれ、カレー大好き。

S9:でも、あきますよ、ぜったい!

S10:くだものは、バナナやマンゴーなどいろいろとれます。  
(スライド9:果物)

S1:このココナッツチップスは、さきいかみたい!

S2:③建物(住)

S3:建物は、レンガづくりで大きなビルも建てるので、地しんがきたら、たいへんです。  
(スライド10:竹で支えている建築中のビル)

S4:鉄筋じゃなく、竹だー!

S5:貧しい人は、土や草やトタンの家に住んでいます。トタンの家は、雨が降ると、とたんにすごい音がします。

【4】

S6:車

(スライド11:ミニタクシー)

S7:日本のように、車はいっぱい走っていますが、お客を乗せた、人力車に似た車がいっぱい走っています。

(スライド12:リキシャ)

S8:さあ、日本の人力車に似たこの車、ベンガル語では、何というでしょう。(リキシャの模型を手に持って)

S9:① ジンリキシャ ② バングラカー ③ リキシャ

(答えのカード3つを掲げる。)

S10:答えは、リキシャです。

S11:バングラデシュのはたも、このように、日本のはたに似ているけど、車も似ているんですね。

S2:では、ある村の村長さんが考えたこの車はいったいなんでしょう。

(スライド13:自転車式救急車)

S3:① ペットをのせる車 ② 救急車 ③ ट्रাক

S4:正解は、② 救急車です。これも、自転車で引っ張ります。

S5:バングラデシュは、土地がほとんど平らでどこまで行っても山がありません。だから、自転車が活躍できるんですね。

【5】

S6:④学校

(スライド14:大勢の児童が校庭に集まっている様子)

S7:ひとクラスの人数が多く、80人くらいになることも。教室も足りないので、低学年が授業を終えて帰ってから、高学年が登校している学校もあります。

(スライド15:学級の様子)

S8:80人学級なんて、信じらんない。

S9:⑤文化のちがいがいい

S10:バングラデシュの人は、カメラ好きで、デジカメを持っていると、近くに寄ってきて「とって、とって」とせがむそうです。旅行の時は、必ず持って行きましょう。(でかいカメラを持って)

(スライド16:デジカメに群がる人々)

S11:とって、とって。

S2:食事は、手で取って食べます。右手で食べるんだそうですが、左手は、けがれた手ということで、トイレで使うそうです。

S3:じゃー、左ききの人は、どうするの？

S4:指で数を数える時は、こうだそうです。1・2・3～20。  
こうして、かた手で20まで数えます。(やって見せながら)

(スライド 17:じゃんけん)

S5:両手で40まで数えられるなんて、すごい!

【6】

(スライド 18①:90-80=?)

S6:(カードを持って、)これ(90-80=)の答えが分かる人?

S7:そんなのかたんじゃん。10で一す!

S8:残念でした。実は、ベンガル語でこの数字は、70-40で30が答えです。

(スライド 18②:70-40=30)

S9:いつもぼくたちが使っている数字とは違うんだ!

S10:90%の人がイスラム教を信じていて、豚肉は食べないし、女の人にはだを見せない。

S1:そして、外に出るのはほとんど男の人で、男の人の方が強いそうです。最近の日本では、反対かな?

(スライド 19:カレー)

S2:⑥毎日カレー、そのひみつ

(スライド 20①:カレーのひみつ)

S6:ぼくは、この本で、こんなことを知りました。

(読書感想文の一部を読む。)

(スライド 20②:少しのおかず...)

(スライド 20③:お腹いっぱいでも)

(スライド 21:世界の1/4だけ)

この前/ Bangladesh に行ってきた先生は、毎日三食カレーを食べてきたらしい。ぼくはその話を聞いて、Bangladesh の人はカレーが好きなんだなあと思っていた。しかし、それだけの理由ではなかった。Bangladesh のまずい人たちは、少ないおかずでごはんを食べられるように、カレーを食べているのだ。だから、もしカレーをおなかいっぱい食べられたとしても、健康な体を保つのに必要な栄養が足りないじょうたいが長く続いてしまう。つまり、「きが」とよばれるじょうたいの人が多。そういう人たちは、病気にかかりやすく、おなかをこわしたただけで死にそうになることも多いのだそう。食べ物がいつでも十分手に入られるのは、世界の四分の一の人だけと知り、ぼくはとてもおどろいた。世界では、今も8億人の人々が「うえ」に苦しんでいるというのだ。でも、世界中の人たちがあきらめることなく助け合っていけば、きっと「うえ」をなくすことができるとぼくは思う。

S3:森さん、よく調べたね。食べたい物が食べられて当たり前と思っていたのが、違っていたんだ。

【7】

S4:⑦ストリート・チルドレン

S5:2000年から大都市ダッカのまちなかで生活するストリート・チルドレンが大きな問題になっています。

(ストリートチルドレンは、上半身Tシャツや裸で、ルンギを着る。)

(スライド 22:ごみ拾いするストリートチルドレン)

S7:ごみ拾いのまねをして落としていく人(N2)の後を追ってごみを拾う。

(スライド 23:ごみ拾いするストリートチルドレンのアップ)

S6:レモン売りのまね

(N1にレモンを売ろうとする。それをさげようとするN1)

(スライド 24:売り子)

S8:荷物運びのまね (N1の「荷物を運ばせて」と、せがむ。聞いてくれないN1のバックをぬすんでしまう。「どろぼー」と追うN1。)

S9:かれらは、びんぼうなため、朝から晩まで、レモン売りや米拾い、荷物運びやごみ拾いなどをして、働いています。

S10:生きていくために、学校に行くお金もよゆうもないのです。このままでは、彼らはしょうらいに夢を持つことができません。

S1:あるお母さんは、子どもに対して、「どうせかなわない夢なんて、持たない方がいい。」と考えていました。

S2:そんな話を聞いて、私は、悲しくなりました。

## 【8】

S3:青空学級 (スライド 25:青空学級)

S4:そんな子ども達のために、日本の「シャプラニール」という援助グループ、NGOが、青空学級を始めました。

S5:使われなくなったバスのチケット売場を教室に見たてて、ストリートチルドレンのための授業が始まったのです。

S6:そこには、学校に通ったこともなく、字も書けない子ども達が、少しずつ集まってくるようになりました。  
(スライド 26:横になる子と救急箱)

S7:そこに(指差す)、救急箱がありますね。ここで2時間授業をやっている間、具合が悪い子は、安心して眠っていられます。

(スライド 27:ストリートチルドレンと先生)

S8:あの先生は、もとストリート・チルドレンでした。今は、子ども達の気持ちがよく分かる、いい先生です。

S9:ぼくは、大変な中でも、夢を持って、先生になれたのが素晴らしいと思いました。

## 【9】

S10:⑨ ドロップインセンター (スライド 28:ドロップインセンター内にいる明るい子ども達)

S1:ここは、ストリートチルドレンが安心して生活できる場、安心してねられる場として作られたドロップインセンターです。

S2:センターは、日中で100人くらい、夜とまるので、50人くらいの子供達が利用しています。

S3:そこでは、えいようぶそくのストリートチルドレンに、牛乳を1ばいずつ飲ませています。  
(スライド 29:牛乳をもらう場面)

S4:そこから、学校に通うようになった子どももいます。

S5:そんな子のロッカーを見せてもらいました。その子は、教科書や学校のせいふくを宝物のように大切に

ていたそうです。

(スライド 30:ロッカー)

S6:そして、そこでは、ふくろ作りのアルバイトをさせてもらったり、ミシンの使い方を教えてもらったり、少しずつちよ金もしています。

(スライド 31:アルバイト)

S7:私たちは、日本をはじめとする多く国々の助けのおかげで、世界で最も美味しいといわれたバングラデシュの子ども達にも、希望と夢を持てる社会が少しずつできてきていることを知りました。

S3:また、バングラデシュのムハマド・ユヌスという人は、特別な銀行を作り、今までお金をかりられなかった美味しい人たちにお金をかしてあげ、かりた人たちが小さな商売を始めることで、多くの人々をまずしさからすくい、ノーベル平和賞をもらったそうです。

(スライド 32:ムハマド・ユヌス)

S9:こうして、バングラデシュのことを勉強した僕たちは、僕たちにもできそうなことがないか、考えました。

【10】

(スライド 33①:100 円あれば)

S10:わたしが本で調べたら、日本の100円玉たった1つで、バングラデシュのストリートチルドレン20人がコップ1ばいの牛乳を飲めるそうです。

S1:同じ100円で、アフガニスタンの子ども5人に、国語や算数の教科書があげられるそうです。

(スライド 33②:五百円あれば)

S2:500円あれば、病院がなくて困っている、ハイチ共和国のしんりょう所でお医者さんを一日一人やとうことができます。

S3:ふだん、何気なく使っているお金も、使い方によっては、命をすくうお金になるんだなあ、と思いました。

(スライド 33③:命を救うお金)

S4:数年前にイギリスのある大学で、「あなたは、自分の国に生まれて 幸せですか。」という質問をしたそうです。

(スライド 34:質問)

S5:その質問に、「わたしはこの国に生まれて幸せです。」という答えが一番多かったのは、どの国だと思いますか。次の3つからえらんでください。

① 日本 ② 韓国 ③ バングラデシュ

S6:答えは、③のバングラデシュです。「わたしはこの国に生まれて幸せです。」という答えが一番多かったのは、バングラデシュ、韓国は、30位、日本は、70位くらいだったそうです。

S10:物の美味しい国に住んでいても、かがやく笑顔をしていたバングラデシュの人々。わたしたちは今思っています。しあわせってなんだろうと。

(スライド 35~44:子ども達の写真スライド 10 枚を小田和正の「だいじょうぶ」の曲にのせて流す。)

S1:ぼくにとって、しあわせとは、生きているということ。

S3:生きていること、そして、ごはんが食べれるということ。

S8:お母さんにやさしくしてもらった時、しあわせって感じる。

S5: ぼくにとって、しあわせって、うれしいこと。

S6: 笑顔でニコニコ笑ってられること。そして、夢を見られること。

S4: 勉強ができること。

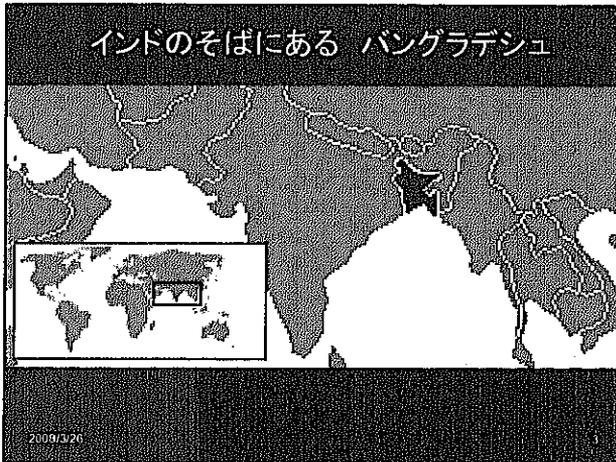
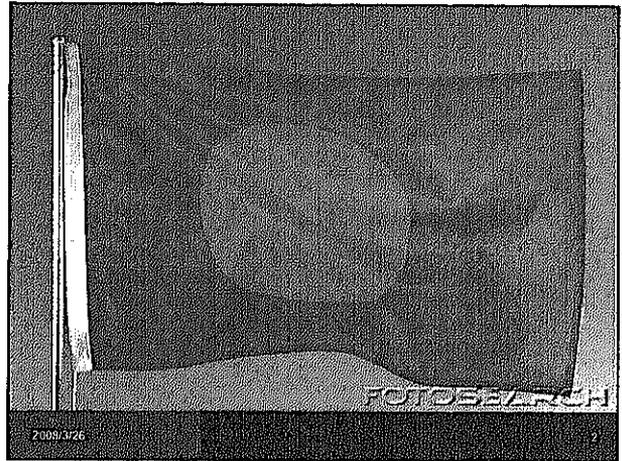
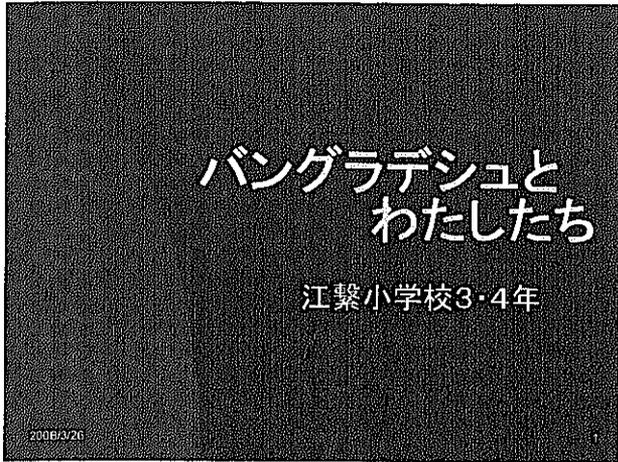
S10: 自分にできることがあること。

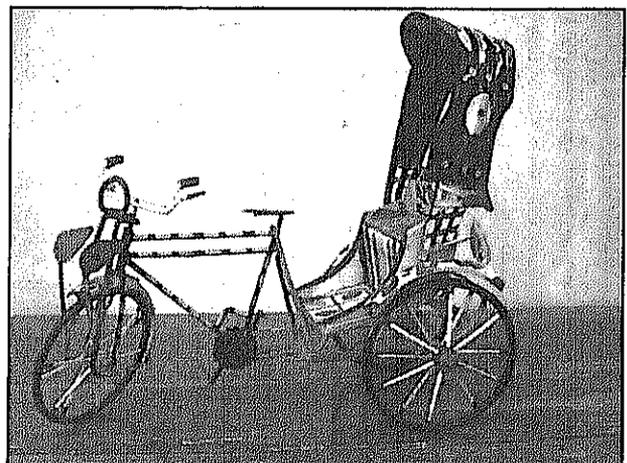
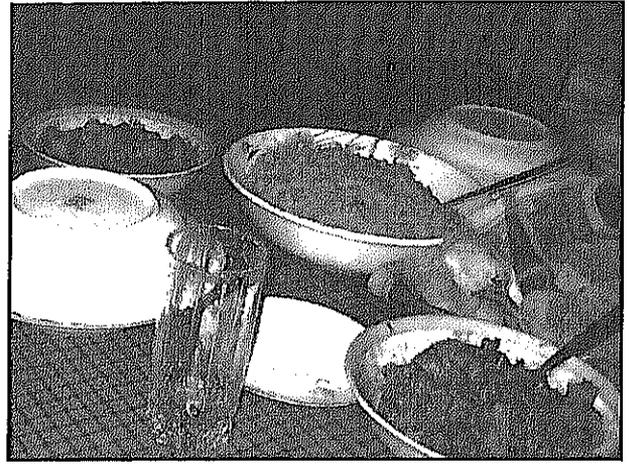
S7: ほめられること、ぼくは、ほめられた時、しあわせって感じる。

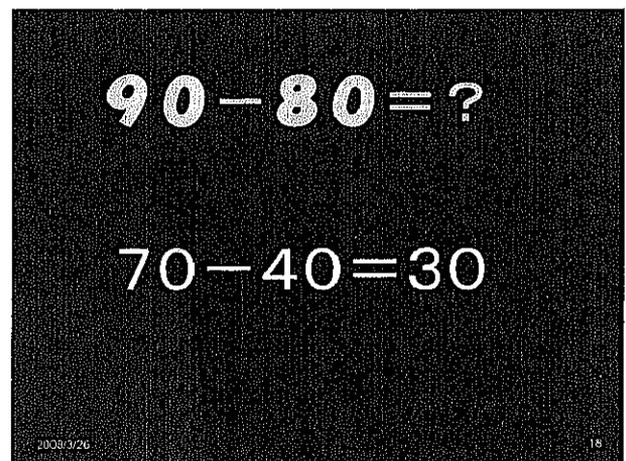
(スライド 45: 背景のみ)

S4: 人それぞれいろいろなしあわせがあります。でも、ぼくたちは、みんなしあわせです。そして、このしあわせをより多くの人に分けてあげたいと思います。

(スライド 46: 多くの人に幸せを)









## カレーのひみつ



少しのおかずでごはんが食べられる



お腹いっぱいでも、栄養不足

2008/3/26

20

食べ物がいつでも手に入るのは、  
世界の4分の1の人だけ

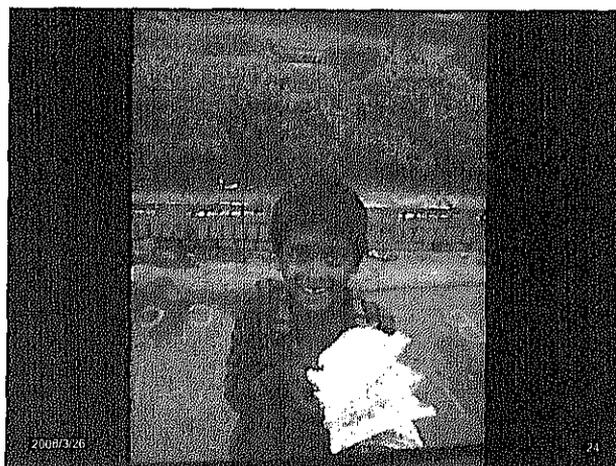
世界の8億人の人が「うえ」に  
苦しんでいる

2008/3/26



2008/3/26

23



2008/3/26

24

